



人手不足よく聞くけど…

◆有効求人倍率 1.99倍 バブル期並みの高水準

ブン子さんは北陸経済研究所（富山市）の辻野秀信主任研究員に質問しました。

Q－企業は人手不足で大変って耳にするわ。

A－人手不足の状況は、有効求人倍率という数値で見ることができます。仕事を探している1人当たりは何件の仕事の募集があるかを示すものです。倍率が高くなるのは、企業が求めている数が多いときと、働くことを希望する人が少ないときです。どちらも企業にとっては人手不足の状態です。

Q－富山県も深刻かな。

A－先月発表された3月の数値では富山の有効求人倍率は1.99倍で、全国平均の1.59倍を大きく上回りました。都道府県で比較すると、たくさんの企業が人員募集を行っている東京が最も高く、福井に続き、富山は3番目です。北陸は3県が上位に並び、全国的に人手不足が深刻な地域と言えます。1.9倍を超えるのは約25年ぶりで、非常に景気が良かったバブル期（1986年12月～91年2月）に匹敵します。

Q－景気が良いから人手不足になるのかしら。

A－一般に求人の倍率が高い社会は、企業がより多くの労働者を求めており、経済に活気があると言えます。ただし、大都市圏に働き手が流出して労働人口が少なくなるケースも考えられ、一概には言えません。働き手が足りずに事業継続ができない「人手不足倒産」が起りつつあるからです。

Q－心配だなあ。解決方法はあるのかしら。

A－企業は少ない人数でより多くの商品やサービスを生み出せるような設備投資や、事務作業のやり方を見直し、生産性を高めることを考え始めています。

働き手の目線に立って、人材募集や職場環境のあり方を見直し、職場の魅力を伝える工夫も大切です。このコーナーで以前に紹介したことがあります。ノー残業デーの導入や育児制度の拡大、女性活躍の推進など、県内企業の「働き方改革」も取り組みの一つです。

